

*この説明書は、使用前によくお読み下さい。
なお、服用が終わるまでお手元に保存して下さい。

第②類医薬品

解熱鎮痛薬 痛みと熱に **カイブレン**

△ 使用上の注意

⊗ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
(3) 15歳未満の小児。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗り物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと
(眠気等があらわれることがある。)
4. 服用後は飲酒しないこと
5. 長期連用しないこと

■ 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
(3) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼小児(15歳未満)。
(4) 高齢者。
(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(6) 次の診断を受けた人。
心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ	精神神経系	めまい
消化器	吐き気、嘔吐、食欲不振	その他	過度の体温低下

裏面もお読み下さい

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性発疹性膿疱症)	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上がったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
腎障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢、尿量の減少等があらわれる。
ぜんそく	息をすするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること 眠気
4. 5~6回服用しても症状がよくなりない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

【用法用量に関連する注意】

- (1) 1日1回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用すること。
- (2) 15歳未満の小児には服用させないこと。

保管及び取り扱上の注意

- (1) 直射日光のあたらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること。
- (3) 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)

製造販売元

天真堂製薬株式会社 奈良県高市郡明日香村越495-1

「お客様相談窓口」(電話0744-54-3088) 受付時間:9時~17時(土、日、祝日を除く)

「副作用被害救済制度」について

(独)医薬品医療機器総合機構 <http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>
電話:0120-149-931(フリーダイヤル)